

令和4年6月11日

言葉の処方箋

いい覚悟で生きる 樋野 興夫 P74

「偉大なるお節介症候群」と認定します

冗談のようなことを本気でやり、模範となるような一歩を踏み出す。
偉大なるお節介が蔓延すれば、希望が広がります。

余計なお節介と、偉大なるお節介は、同じように思えるかもしれませんが、相手の必要に共感することが「偉大なるお節介」で、自分の気持ちで相手に接するのが「余計なお節介」です。

私は、「偉大なるお節介」を世の中に蔓延させるために、「偉大なるお節介症候群」の認定証というのを発行しています。がん哲学外来の賛同者やメディカルカフェのボランティアスタッフたちをはじめ、認定証を授与されると、誰もがたいそう喜んでくれます。

まず、「偉大なるお節介症候群」の主症状とも言える診断基準は、次の3つです。

1 暇げな風貌

2 偉大なるお節介

3 速効性と英断

「速効性と英断」とは、冗談のようなことを本気でやること、いいことは相談せずですぐ動くこと、つまり、タイミングを逃さずに行動する勇気を養い、実行することだと説明しています。

毎年、大学の卒業間近になると、「先生、偉大なるお節介の賞状をください」と言っ

て学生がやって来ます。「あげてもいいけど、選考項目があるんだよ」と言っ

て、私は学生を試します。その項目は、学生には人生の指針になり、がん哲学外来カフェのスタッフをはじめとする大人には立ち止まって考える反省材料となり、がん患者さんには励ましの言葉になっています。

その項目とは、次のようなものです。

1 役割意識&使命感を持つ

2 練られた品性&綽々たる余裕

3 賢明な寛容さ

4 実例と実行

5 世の流行り廃りに一喜一憂せず、あくせくしない態度

6 軽やかに、そしてものを楽しむ。自らの強みを基盤とする

7 新しいことにも、自分の知らないことにも謙虚で、常に前に向かって努力する

8 行いの美しい人 (a person who does handsome)

9 冗談を実現する胆力 (sense of humor) のすすめ

10 ユーモアに溢れ、心優しく、俯瞰的な大局観のある人物

どれもあらためて説明する必要はないでしょうが、4について補足すれば、「実例と実行」とは「モデルとして実行する力」のことで、「自ら模範となるような一歩を踏み出せ」という意味を込めています。

自分よりも困っている人に積極的にかかわっていると、必ず誰かが見ていてくれるものです。偉大なるお節介をすれば、必ず誰かが助けてくれます。そして、同好の士と出会い、集まる場を持っていると人生は確実に豊かになります。

がん哲学外来カフェをサポートしてくれているスタッフの中には、がん患者の人が少なくありません。「偉大なるお節介症候群認定証」を授与したある人は、このような感想を記してくれました。

「私自身、がんが再発して、楽観できる闘病の状況でもないのに、人のために お節介な物好きだなあ、と自嘲しています。『偉大なるお節介症候群認定証』は身に余っていましたが、利他の心で自分を信じるようにしています。が、余計なお節介かもしれません」

まさに偉大なるお節介症候群の主症状そのものではありませんか。

☆次回は7月16日(土)おんびつと訪問看護ステーションです。